

昭和40年代、埼玉県深谷市周辺の私の親戚は、養蚕農家が多かったです。養蚕農家は大抵は一階が居室、二階が蚕室になっていました。その家に泊めてもらった時、屋根に当たる雨の音で目が覚めました。ちょっと怖くなって、とんで寝ていた従姉を起こして「おねえちゃん、雨だよ」というと、「ちーちゃん（私のこと）、あれは雨じゃなくて、おかいこさまがクワを食べる音だよ」と教えてくれました。従姉に連れられて二階に上がると、真っ暗な蚕室で、まさにカイコがクワを食べている「ザーーーー」という音でした。カイコのことを「おかいこさま」と呼ぶのも初めて知りました。

小学校の教員になってからも、その親戚からタネ（カイコの卵）をもらって、毛子（けご／1齢幼虫）から育てました。クワの葉の入手に苦労しましたが、昆虫の成長の学習材としては、非常に優れたものだと思っています。

先日、北区の小学校で3年生の昆虫の授業があり、その学習支援で行ってきました。カイコの観察です。子どもたちのほとんどはカイコを見るのも触るのも初めてで、シャーレに1頭（匹）ずつ小分けにして配布すると、キャーキャー言って大騒ぎでした。しかしだんだん慣れてきて、触ったり指に載せたりして、「かわいいー！」の大合唱でした。最後に繭から生糸を巻き取る実験もして、「面白かったー！」と満足そうでした。

今は養蚕農家も少なく、餌のクワの葉の入手が難しいこともあって、昆虫の成長（完全変態）の学習材にカイコを使う学校は稀だと思います。また、学校で飼育する場合は「人工飼料」を使うのが普通になってきました。カイコ用の人工飼料は、ペースト状にしたクワの葉を、ようかんのように固めたものです。児童の観察後に餌に戻すと、おなか为空いていたのか、ものすごい食べっぷりでした。尚、人工飼料で飼育しているカイコに、途中で普通のクワを与えると、その後なかなか人工飼料を食べなくなってしまうので注意が必要です。

